

愛国学園短期大学

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	愛国学園短期大学		設置者名	学校法人 愛国学園				
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)			
	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数
						実数	個別	
	家政科家政専攻	50人	中二種免(家庭)	昭和37年度	12人	1人	1人	0人
入学定員合計		50人	合計		12人	1人	1人	0人
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。							

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年10月28日（金）

実地視察大学：愛国学園短期大学

実地視察委員：宮崎英憲委員、村松泰子委員、油布佐和子委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

- ・ 1学科1専攻で教員養成を行っている。

<講評>

- ・ 教員養成に関する教育課程及び教員組織について、一部基準を満たしていない部分があるので早急に改善を行うこと。
- ・ 学校現場の実態を踏まえた教員養成に取り組むこと。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 「社会人としては、豊かな知識と技術とをもって経済的に独立し、家庭人としては、美しい情操と強い奉仕心とをもって一家の幸福の源泉となる、健全な精神と心身とをそなえた女性の育成を目的とする」という建学の精神に基づき、教員養成を行うこととしている。
- ・ 豊かな教養を備え、教科指導に関する確実な専門的能力を持ち、常に自己研鑽に努めて、専門知識・技術を向上させ、親切・正直で優れた対人関係能力を備えた教師の育成を目指している。

<講評>

- ・ 教員養成に対する理念及び構想が示されているが、具体の教職課程において実質化・具現化がされているとは言えない。教職課程に対する全学的な組織や教育課程及び教員組織の充実を図り、教員養成の理念の実現に努めること。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<講評>

- ・隔年で開講している科目があるために、各段階における到達目標を毎年変更しなければならない状況になっている。カリキュラムは本来、到達目標を見据えて体系的に編成すべきものであることから、すでに作成している「理想モデル」をベースとして、体系化を図ること。
- ・教職に関する科目を担当する専任教員が3名配置されているが、大半の科目を1名の教員が担当している。学生が多くの専任教員の授業を受けることによってバランスよく教職に関する科目について学修することができるよう教員組織の改革を図ること。
- ・教職に関する科目について、教育職員免許法施行規則に定める「含めることが必要な事項」が含まれていない科目があるため、法令で扱うこととしている内容は必ず扱うようにすること。
- ・技術の修得する授業科目名を「～の研究」とするのは不適切なため、「～の指導法」などに改めること。
- ・少人数授業を特色としているにも関わらず、少人数である利点を活かした授業の取組が見られない。講義形式だけで授業を行うのではなく、例えば、ゼミや実地経験を取り入れるなどの工夫をし、自ら考える授業とすることができるのではないかと。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・系列の中学校で教育実習を行っている。
- ・授業科目「教育実習事前事後指導」の単位修得のために必要な時間数に、授業科目「介護等体験事前事後指導」の授業時間数を含めており、「教育実習事前事後指導」の単位修得に必要な時間数が確保されていないことが判明した。

<講評>

- ・今後は系列校ではない学校での教育実習の機会の確保についても検討すること。
- ・大学として「教育実習に係る事前及び事後の指導」に必要な単位数を早急に確保すること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・これまで学校現場体験・学校ボランティア活動は行っていない。

<講評>

- ・過去の中央教育審議会等で、教員養成課程においてインターンシップや学校現場を体験する機会や、学校外における子どもとの触れ合いの機会、現職教員との意見交換の機会等を積極的に提供することが必要であることが謳われているにもかかわらず、これまで大学として学校現場体験・学校ボランティア活動等の取組をしていないことは、教員養成に対する意識が低いと指摘せざるを得ない。
- ・教職を目指す学生に実践的な学びを保障し、教員採用後に大きな苦難に直面することのないよう、大学として積極的に学校現場体験・学校ボランティア活動を実施するなど、学校現場の現状を踏まえた教員養成に努めること。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・学生数が少ないことから、学生1人1人の状況を把握し迅速に情報共有するなど、指導体制の充実に努めている。

<講評>

- ・特別支援を必要とする児童生徒の増加など、学校現場が抱えている課題が増加している中で、教員養成を担う課程認定大学として、単に基準を満たすのみでなく、可能な限り実践力を身に付けることができるような教職課程とするよう努めること。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・「教職課程運営分科会」、「教職課程指導分科会」を立ち上げ、教職課程運営分科会でカリキュラムについての課題を検討し、教職課程指導分科会で履修案内、履修指導、進路指導等、学生を指導している

<講評>

- ・今後、両分科会が実質的に機能するように、より一層の努力をすること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・ 図書については教職に関する雑誌、小学校の学習指導要領、小学校の家庭科教科書が十分整備されているとは言えないため、教職を志す学生の専門性を高めるよう、より書籍の充実に努めること。